

## 次期 S I P ターゲット領域有識者検討会議（第 2 回）（概要）

1. 日時 令和 3 年 11 月 17 日（木）14:00～16:00
2. 場所 オンライン開催
3. 出席者
  - 赤池 伸一 文部科学省科学技術・学術政策研究所 上席フェロー  
内閣府科学技術・イノベーション推進事務局 参事官
  - 五十嵐 仁一 一般社団法人産業競争力懇談会 実行委員長  
ENEOS 総研株式会社 代表取締役社長
  - 小川 尚子 一般社団法人日本経済団体連合会 産業技術本部 副本部長
  - 金田 安史 国立大学法人大阪大学 理事・副学長  
（代理：秦 茂則 国立大学法人大阪大学 教授）
  - 川上 登福 公益社団法人経済同友会 幹事  
株式会社経営共創基盤 共同経営者（パートナー）マネージングディレクター
  - 岸本 喜久雄 国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構  
技術戦略研究センター センター長
  - 倉持 隆雄 国立研究開発法人科学技術振興機構  
研究開発戦略センター 副センター長
  - 坂田 一郎 国立大学法人東京大学 総長特別参与 大学院工学系研究科教授
  - 篠原 弘道 内閣府 総合科学技術・イノベーション会議有識者議員
  - 須藤 亮 内閣府 政策参与・S I P プログラム統括
  - 橋本 和仁 内閣府 総合科学技術・イノベーション会議有識者議員
  - 宮澤 伸 日本商工会議所 地域振興部長
4. 配布資料
  - 資料 1 次期 SIP ターゲット領域有識者検討会議（第 1 回）議事概要
  - 資料 2 次期 SIP の基本的な枠組み（案）
  - 資料 3 坂田構成員提出資料
  - 資料 4 次期 SIP のターゲット領域の設定（素案）
5. 議事
  - （1）次期 SIP ターゲット領域有識者検討会議（第 1 回）議事概要について
  - （2）次期 SIP の基本的な枠組み（案）
  - （3）次期 SIP のターゲット領域の設定（素案）

## 6. 議事概要

- (1) 事務局より、資料1に基づき、次期 SIP ターゲット領域有識者検討会議（第1回。以下「検討会議」という。） 議事概要について説明を行った。
- (2) 事務局より、資料2に基づき、次期 SIP の基本的な枠組み（案）について、坂田委員より、資料3に基づき、MLP（Multi-Level Perspective）フレームワークを用いた俯瞰的認識についてそれぞれ説明し、議論を行った。構成員からの主な意見は以下のとおり。
  - ・システム統合型の要素として進めている研究テーマの中で、汎用性がある研究テーマが存在する場合もあり、そのような場合に、途中の座組の変更、出口の追加が随時できるというフレキシビリティのようなものを最初から意識しておいた方がよい。
  - ・基礎研究から社会実装、さらに社会実装が終わった後、更にそれが基礎研究に戻っていく、このサイクルが SIP のコンセプトとして重要。
  - ・SIP は大事なプログラムなので、ここで新しい評価手法を考えていくぐらいのこともやってよいのではないか。研究データのマネジメントも含めた研究プロセスの評価が重要。
  - ・BRL はレベルが順番に上がっていくのではなく、実際にはレベルが行ったり来たりするような形になることもある。
  - ・評価については、複数のアクティビティを束ねて動かす場合に、その束に応じた時間軸を織り込んだ評価軸を自ら設定していくことが大事。
  - ・フィジビリティは半年でやるということであるが、半年ではいろいろなものが動かないこともある。一方、プログラム開始後も年度をまたがずして判断できるようなものもあり、PD が機動的に判断出来るようにすることが必要。
  - ・人材育成という観点から PD に若手を登用することも検討して欲しい。
  - ・PD は個別技術の専門家というよりは、やはり分野融合にたけた方という視点から選ぶべき。
  - ・利益相反の関係で、社会実装のところで中心的な担い手となる企業の関係者が、PD になれないのはナンセンス。
  - ・PD をやることは大変であり、PD を支える管理法人や専門家が必要になると思いますので、PD を支える専門家チームをきちんと作る必要があります。
  - ・予算が切れたところで実証実験をしておしまいでなく、地域で先導的なモデルを実証したら、それが必ず実装され、他地域にも横展開されるというところまで見据えるべき。
  - ・社会課題を広く地域にオープンにし、地域の事業者や住民を巻き込みながら実証実験を行っていただければ、社会実装を含めた様々な波及効果が生まれてくるのではないかと。ベンチャー等にも地域に来ていただき、地域の多様な方とディスカッションしながら実証実験をしていただくとよい。
- (3) 事務局より、資料4に基づき、次期 SIP のターゲット領域の設定（素案）について説明し、議論を行った。構成員からの主な意見は以下のとおり。
  - ・広げた方がよいもの、狭めた方がよいもの、もしくはサブの領域に分けた方がよいものなどあるのではないかと。
  - ・この場だけでコメントするのは難しいので、1～2週間程度の期間を設けて、各構成員からコメントを出すような形にどうか。
- (4) 構成員からの提案を受け、ターゲット領域の設定（素案）について、11月月末までに各構成員からコメントを提出いただくこととなった。
- (5) 議論の終わりに、事務局より、今後のスケジュールについての連絡を行った。